

◇子どもの実態

- 児童数 341人
 - ・ 通常学級12学級
 - ・ 特別支援学級3学級（自閉情緒2、知的1）
 - ・ 特別支援教室（通級教室）5
- 明るく元気で人懐っこい子どもたちが多く、学習中も落ち着いて取り組むことができる。
- アンケート等の結果から、家庭学習の時間が短い子どもが少ない（家庭学習時間の目安：学年×10分）
- 運動をすることが好きな子どもが多く、積極的に取り組む姿がよく見られる。
- コミュニケーション不足によるトラブルやSNSによるトラブルが生じることがある。望ましい人間関係を築く力や情報モラルを理解・実践するための力を身に付ける学習が必要である。

◇めざす学校像

- (1) **こどもが安心して学ぶことができる学校**
規律と思いやりがあり、楽しく学び、活動できる
自分が受け入れられていると実感し、主体的に活動できる
- (2) **保護者が安心してこどもを任せることができる学校**
安全で安心して過ごすことができる
こどもの成長を後押ししていることが実感できる
- (3) **地域から信頼される学校**
地域とつながり、多様な学びや体験を共に推進していく
- (4) **教職員が安心して働くことができる学校**
自分の力が発揮でき、やりがいがある
負担感や孤独感なく、誇りをもって、こどもと向き合える

⇒**確かな信頼関係**：こども相互、こどもと教職員、教職員相互、⇒**確かな連携**：学校と保護者・地域、保・幼・小・中、関係機関⇒**学び合い、高めあう教職員集団****一時間一時間の授業の中に教育のすべてがある**

- ◇ **子どもが「この学校で学びたい！」**
保護者や地域の人々が「この学校に行かせたい！」
教職員が「この学校で働きたい！」と思う学校に！

◇めざす教職員像

- 「こどもまんなか」で質の高い教育環境の充実を図る教職員集団
- 豊かな人権感覚をもち、こどもに温かい言葉をかける教職員
- 時代の変化に対応し、自己の資質能力の向上を図る教職員
- こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境を作る教職員
- こどもの力を伸ばすために日々の授業を大切にする教職員
- ※ **ワークライフバランスの充実とメンタルヘルス等の健康保持**

☆『チーム広徳』の信頼と結束

- 「時を守り、場を清め、礼をつくす」
- **自分の力が発揮でき、働きがいがある**
- **誇りをもってこどもと向き合える**
⇒得意分野を生かした支え合い 業務改善の推進

◇ 学校教育目標とめざす子ども像 ◇

豊かな心をもち、相手を思いやり、ともに『生きる力』を身に付ける児童の育成
～「夢・情熱・笑顔」を携え 心つなぐ広徳っ子～

- はげむ子（徳） 豊かな心をもち、自分や友達のよさを認め、ともにはげむ子ども
- のびる子（体） 心と体をきたえ、たくましく伸びようとする子ども
- すすむ子（知） すすんで学習し、よりよい自己を求めてやまない子ども

【めざすこどもの姿】

- **すすんであいさつし、あたたかい言葉を使う姿**
 - ・ すすんであいさつし「ありがとう」という感謝の心をもって、一つ一つの活動を通して仲間や先生と確かな絆で「つながる」
- **自分や友達のよさに気づき、認め合う姿**
 - ・ 主体的に活動するとともに、友達の考え・意見を大切にし、協力して取り組む。
 - ・ 奉仕的な活動を通して、奉仕のこころと感謝の心で「つながる」
- **すすんで学び、自分の考えをまとめたり、相手にわかりやすく伝えたりして、学習や生活の中で高め合う姿**
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びを通して、自らの可能性を発揮する。
※「**自学力**」の育成 →家庭学習の取組のシステム化
- **すすんで運動し、自分の健康や安全を創り出していこうとする姿**
 - ・ 健康や安全に対して主体的に考え、すすんで運動や生活習慣の改善に取り組む。

<令和7年度の重点目標>

★全てのこどもにとって、「居心地の良い学校」をつくる★

- (1) **温かい人間関係を築く（こども相互・こどもと教職員・教職員相互）**
教育活動は、全教職員が課題に対して共通理解を図りながら取り組むことが肝要である。自分の学級のこどもだけでなく、どのこどもにも目を向け、全教職員で見守り、自己実現を図っていく。そのためには、互いを尊重し、思いやりのある温かい人間関係を築くことが基盤となる。
- (2) **こどもを中心に据えた教育活動の推進**
こどもは、先生を選べないことを認識し、「**こどものために**」を第一に考え、こどもが充実感や満足感を得られるように心がける。こどもが楽しく登校し、**安心・安全**に生活する中で、意欲的に学習することが、基礎的・基本的な内容を身に付けることにつながっていく。一人一人のこどもを、かけがえのない存在として大切にし、誰一人取り残さない学びを進めることが必要である。
- (3) **こどもが「わかる」・「できる」を実感する授業づくりの追求**
こどもは「わかる」・「できる」授業を求めている。教師は、子どもの願いを実現していく専門職である。専門職としての自覚と使命感をもち、常に研究と修養に努め、一步一步前進する。教師としての力量を高めることは、子どもや保護者、地域の信頼と期待に応える第一歩である。
- (4) **学校の教育目標達成に向け、組織として機能する体制の確立**
個々の教職員の指導力やモチベーションが十分発揮され、組織として結集されなければならない。結集点は「学校教育目標」である。心情的な和を基盤として、学校教育目標達成に向かって、研究的かつ生産的な実践を推進することが必要である。
- (5) **家庭、地域の人材や施設、関係機関と連携し、教育効果を高める**
こどもたちが抱える課題を学校だけで解決しようとするのではなく、家庭や地域、関係機関等と連携しながら、協力して取り組むことが必要である。また、こどもの可能性をより引き出すため、地域の施設や人材を活用することで、様々な学びや体験ができる機会を作ることも重要である。

◇ 学校教育目標達成のための具体的な方策 ◇

- (1) **教職員相互の協働体制のもとでの学校の教育力の向上**
こどもの育ちを多面的・組織的に支援する協働体制の充実
- (2) **こどもの自己実現を目指す積極的な生徒指導の推進**
 - ① 「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」「自己決定の場を与える」ことを基盤とした、学年・学級経営の充実：「**学年担任**」「**近接学年チーム**」の推進
 - ② **生徒指導主任を中核とした生徒指導体制の構築**
「教職員同士がなんでも相談し合える職員室に」
 - ◆ **定期的な生徒指導部会・終礼等での報告**
 - ※ 「ん？」と感じる教職員の直感を大切に。
 - ※ **まず出欠の確実な把握**⇒怠学・不登校の未然防止
 - ※ **報・連・相と対応の確認・経過と結果の報告と記録**
 - ※ 「指導する先生」と「見過ごす先生」がないように。
生徒指導のスタンダード化、同じベクトル
- (3) **豊かな体験を通し、自己の生き方について考えを深める道徳教育の充実 ～道徳科の確実な実施～**
- (4) **基礎的・基本的な内容の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る学習指導の推進**
 - ① 学習規律の確立：学びの基盤を学校全体でつくる
 - ② 個別最適な学び：基礎的・基本的な内容の定着
協働的な学び：思考力・判断力・表現力の育成
ICTの活用⇒主体的に対話的な深い学びへの転換
- (5) **あらゆる教育活動を通した人権教育の推進**
 - ① よりよい学級集団づくりと人権啓発：教育課題について教職員間で共通理解を図る。地域との連携。
 - ② **教職員の人権感覚を磨く研修を計画的に実施**
- (6) **実践的な指導力を高める特別支援教育・校内研究の推進**
 - ① **UDの視点を重視した日常的な授業改善の充実**
 - ② **学習環境の整備「広徳スタイル」**
 - ③ **特別支援教育コーディネーターを中核とした支援体制の確立**
⇒「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」による**教育的ニーズの把握と適切な教育的支援の充実**
⇒関係機関との連携、特別支援教室（通級）、啓発学習、就学相談・教育相談につなぐための担任のサポート等
 - ④ 校内研修：**ボトムアップ型の研修体制の構築**
- (7) **子どもの健康・安全の確保に対する対応策の強化**
 - ① 保護者・地域と連携した健康・安全指導
 - ② 食育の充実 安全・安心な学校給食（アレルギー対応）
 - ③ **学校事故・子どものけが等に対する確実な情報共有と迅速かつ適切な対応**
- (8) **保護者・地域との連携 積極的な情報発信**
 - ① 学校だより 学校HP 学年・学級通信
 - ② PTAサークルやスクールヘルパー、地域との連携
 - ③ tetoruによる情報発信